

# 医師不足地域を支える医師



磐田市立総合病院

副院長 外来化学療法センター長  
がん診療センター長

飛田 規 医師

## —— 医師をこころざしたきっかけを教えてください。

飛田医師 医師になろうと思ったのは、同級生を病気で失ったことが最初のきっかけだったと思います。血液内科を意識したのは臨床実習が始まった頃で、大学病院で第一例目の骨髄移植が実施されたときに、この治療は白血病の将来を変えるかもしれないと考え、関わりたいと思ったからです。

## —— 医師として働いてきた中で印象に残っていることを教えてください。

飛田医師 血液内科医となって6年目、名古屋で骨髄移植を同年代の医師たちと学ぶことができました。多忙な日が続き、楽ではありませんでしたが最先端を担っているという自負があり、充実した日々を送りました。今も、当時の同僚との交流は続き、代えがたい財産となっています。

## —— 地域の病院として果たす役割について教えてください。

飛田医師 静岡県の特徴として、地域医療の中核を担っているのは公立病院が多く、その市(町)における唯一の救急病院であることも少なくないことが挙げられます。救急車は24時間、365日やってきます。地域とともに病院があり、住民の皆さんに安心して生活して頂ける環境を提供していることは、地域における医療機関に勤めることのやりがいであり、誇りだと思います。



## —— 医師不足地域での勤務について（地域医療に対するお考え、やりがい等）教えてください。

**飛田医師** 静岡県の中にあっても医師不足が顕著と言われる志太榛原と中東遠の二次医療圏に、20年以上勤務してきました。新臨床研修制度を発端とした医療崩壊に直面した時には、地域の病院間連携や行政、地域医師会との連携を進めて救急医療の維持に注力しました。当時に比べ状況は改善していると感じますが、依然として安心できる状況ではありません。

当院はその中であって、中東遠地域における医療の中心として地域医療を支える立場にあります。中で勤務している限り医師不足を自覚することはほとんどありませんが、やはり患者 / 医療者の比率は高く、遠方から来院される方も多くいらっしゃいます。

## —— 貴院で勤務する若手医師の活躍について教えてください。

**飛田医師** コロナが流行する中で、まったく予想しなかった研修になっているのかもしれませんが、楽しそうに生き生きと勤務している姿に接すると、柔軟で前向きな姿勢にたくましさを感じ頼もしく思います。

## —— 医師を目指す学生へメッセージをお願いします。

**飛田医師** 親の転勤について回り、各地の生活を体験しました。その中で、穏やかな気候と県民性にひかれて静岡に住み着きました。骨髄移植の成績が向上する時期に血液内科医としての経験を重ね、さらに血液疾患の治療は感染症との戦いだったことから、感染対策にも関わることとなりました。現在は、がん診療の仕組み作りを主な仕事として、さらには微力ながら地域における安全な輸血医療の推進や医療機能の底上げのための活動をしています。2020年からは、コロナが飛び込んできたので再び感染対策に関わる時間が多くなっています。その時々直感に働きかける何かと接し、それに関わる仕事を自ら選択してきたと思います。

どうか生きがいを持って打ち込める仕事を見つけ、その仕事を楽しんで下さい。



### プロフィール

## 飛田 規 医師

1989年～ 名古屋第二赤十字病院  
1990年～ 浜松医科大学医学部附属病院  
1997年～ 焼津市立総合病院  
2009年～ 磐田市立総合病院